



令和7年3月31日

東京都立多摩桜の丘学園 令和6年度学校経営報告

校長 西田 良児

本年度の学校テーマは、児童・生徒、保護者、地域の方々、教職員等の本校に関わる全ての人々の「つながり」を大切にするために、スローガンを「人とつながり、人が輝く！花と緑の桜の丘」とした。

本校の最大の特色である地域と連携した教育活動を通して、本校に関わる全ての人々が一体となった取組（つながり）を大切にし、共生社会（地域につながる）の実現に向けた象徴となる学校経営を行っていくという意味が込められている。

今年度からコロナ禍以前の教育活動へ全面的に戻していく方向で様々な取組を行ってきた。例えば、地域と連携した教育活動の全面再開、校外学習・宿泊学習等の計画実施、水泳指導の本格実施、授業参観や多摩桜祭などの学校行事やPTA主催行事の実施について、地域の方々も含めて全面的にできたことは、大きな喜びであり、児童・生徒、保護者、地域の方々、教職員等のつながりが大いに見られた結果である。

児童・生徒が活躍する姿を明らかにし、全校で共有していく取組については引き続き実施した。例えば、本校でこれまで取り組んできた、多摩市消防写生会や都立知的障害特別支援学校清掃技能検定等、各種大会への参加について、表彰等があった場合に、受賞した児童・生徒だけでなく、全校の児童・生徒そして、指導・支援に関わった教職員、保護者等、学校全体で喜びを共有できるよう、学校だより等でも周知・共有することなど工夫した。

今年度から全校授業参観や学校公開等では、人数制限を撤廃し、地域の方に参加を促し、コロナ禍以前の姿へと戻ってきた。1学期に実施した全校授業参観では、約500名を超える来校者があった。また、学校公開では、地域の事業所等にも公開し、2回の実施で合わせて約200名の来校者があった。さらに、2学期に実施した多摩桜祭では、約900名近くの保護者や地域の関係者、また卒業生の方々の参観があった。PTA活動においても6月の余暇活動や9月の秋祭りにおいて、たくさんの方々が来校し大盛況であった。

一方、感染予防の観点からは、12月のインフルエンザ流行期に、二つの学年で学年閉鎖を余儀なく実施し、あらためて基本的な感染対策（換気、手洗い、消毒、必要に応じたマスクの着用等）の徹底について再確認した。

今年度の大きな取組の一つとして、ユネスコスクール加盟に向けた準備を進めてきた。何か新しいことを行うのではなく、これまで本校が取り組んできた教育実践をあらためて確認し、授業等に生かしてきた。自分たちにできることは何かを考え、子供たちの「人の役に立ちたい」、「社会に貢献したい」という気持ちを大切にしながら、ESDの活動を継続していくことが大切である。

また、教員の働き方改革に向けては、ICTの活用や会議の運営方法の改善により、会議時間の短縮化やペーパーレス化を図ることができた。令和7年度に向けては、全教職員が定時外在庁時間45時間以内となるよう、時間管理の意識の醸成を引き続き行っていく。さらに、教職員の連携強化や働きやすい職場環境の実現を目指して、職員室の環境改善等を実施することで、多様な働き方をサポートすることにつなげていく。

学校の教育内容については、次年度に向けて引き続き教育課程の改善・充実を図っていく。肢体不自由教育部門では、自立活動を主とする教育課程における教科の時間の拡充を今年度行ってきた。その成果の検証を行うとともに、令和7年度には、小学部から高等部段階までの縦の系統性を整理していく。

知的障害教育部門では、今年度小学部6年生に生活科の時間の指導を設置した。令和7年度に向けては、5年生にも生活科の時間の指導を設け実践を重ねていく。中学部では、今年度新設した社会性の学習の成果検証をするとともに、令和7年度に向けて、社会と理科の時間の指導を設け、指導の充実を図る。高等部では、類型化の在り方を見直し、より子供たちに合った指導の充実を図っていく。

<数値目標と達成状況>

数値目標の評価 A：目標の数値以上の成果をあげた／高度な目標を達成した B：目標の数値を達成した。／高度な目標の数値をほぼ達成した。 C：目標の数値には届かなかったが、おおむね達成した。 D：目標が達成できなかった。

<数値目標>

【方針1】安全と安心を確保する学校づくり

	項目	R5 評価	R6 取組の方向	(年度末記載)	R6 評価
継続	いじめ【0】、体罰・不適切な指導【0】、自殺【0】	B	生活指導部を中心に担任等によるきめ細かい指導	いじめ等については、0件であった。対応やいじめ対策委員の役割などを日ごろから周知徹底していく。	A

継続	週ごとの生活指導重点項目の共有 【毎週・月曜日】	A	前週までの生活指導など、学校運営上の重点項目（情報管理等含む）を週ごとに設定、職朝で共有し、重大事故の未然防止を徹底	毎週「今週のキーワード」として周知徹底した。	A
継続	危機管理研修の実施【20回】、防災訓練（避難訓練等）の実施【12回】	B	校長はじめ、各分掌が組織的に分担	危機管理研修等は、計画とおりに実施することができた。	B
継続	学校事故版インシデント情報共有【10回】	B	組織的に環境整備 インシデント情報の集積と発信・共有	具体的な対応方針など、校内で発信・共有した。	B
継続	医ケア版インシデント情報共有【10回】	B	I部門だけでなく、全校対象に医ケアへの理解啓発	「1分で分かる医ケア通信」の発行を行った。	B
継続	「普通救命技能認定証」を保有する教職員の割合【70%】	A	生活指導部で推進	校内で普通救命講習を実施した。心肺蘇生実技の資格者が今後研修会を実施する。	B
新規	学校評価保護者アンケートにおいて、「安心・安全」に関する項目の満足度の回答【90%以上】	—	通信等での取組み紹介	学校だより等で取組について紹介した。	A

【方針2】 児童・生徒一人一人の学びを支援する質の高い授業づくりを推進する。

	項目	R5 評価	R6 取組の方向	(年度末記載)	R6 評価
新規	学校評価保護者アンケートにおいて、「指導の充実」に関する項目の満足度の回答【90%以上】	—	個別指導計画の保護者との情報共有	個別指導計画における3観点評価の導入、指導計画に基づく、個別最適な学びの充実を図ることができた。	B

継続	「SAKURA学びプラン（仮称）」の作成 ・教科等の目標・内容との関連付け ・自立活動における具体的な指導内容を設定するまでのプロセスの構築	B	P Tを中心に検討をすすめ、次年度の教育課程改善に反映させる	各部門担当者を決め検証を行った。また、研修会等を通して理解に努めた。	B
継続	「SAKURAベーシック」の構築と活用 ・教室環境の基礎・基本 ・登下校時の指導の基本 ・朝の会等の学習場面の指導の基本 ・教室移動時の指導の基本 ・校外歩行時の指導の基本	B	9月までに、各指導場面における基礎基本を洗い出し、年度内にPDF冊子にして共有を図る	主幹会等で、内容整理を行い、また追記等を行わない内容の充実を図ることができた。	A
変更	「おもしろ実践 Book」の作成もしくは、授業研究の実施【全員がどちらかを選択】	B	研究研修部から新様式で企画運営、評価規準の明確化 アーカイブスから定期的に事例紹介	各学部で順調に進めることができた。	B
変更	授業自己評価による授業力の向上	A	6月及び1月に実施	7月に実施した。	B
継続	講師・助言者を招聘した授業研究の実施【各学部2回以上】	B	学部の課題に応じた授業の選定と実施	各学部で研究を通して実施した。	B
新規	小学生科学展等への参加	A	科学展等への計画的な参加	計画的に実施。	A
数値向上	G I G Aスクール（小中学部一人1台端末）・C Y O D（高等部一人1台端末）を活用した授業の実施【小・中・高1全教育課程で10回】	A	週ごとの指導計画を活用してアイデアを蓄積	各学部、デジタル活用部を中心に活用。掲示板等で周知した。	B
継続	学校評価アンケートの見直し ・年間で複数回実施【1学期・全保護者参加】 ・児童・生徒アンケートでの「学校が楽しい」回答【90%以上】 ・保護者アンケートでの「学校の説明は分かりやすい」回答【80%以上】	B	広報や広聴にかかわる部署を立ち上げ、抜本的に見直し状況によって目標は柔軟に対応	教職員・保護者ともに評価時期と回数を見直しを行った。	B

【方針3】健康で豊かな心と体を育てる

	項目	R5 評価	R6 取組の方向	(年度末記載)	R6 評価
継続	「さくら美術館」の作品更新【30回】、「さくら文学館」の作品更新【20回】	B	美術科会、5教科会を中心に実施	年間計画を基に更新。合わせて、HPにも掲載している。	A
継続新規	アートプロジェクト展等への参加【80作品以上】	B	美術科会、5教科会、各学部が連携して実施	グリナード永山では30点展示。 総合文化祭（造形美術部門）には20点出展。 アートプロジェクト展には、17点出展。 はたらく消防車写生会には、2点出展。	B
数値向上	図書室の本の貸出（校内）【2000冊】、外部と連携した読み聞かせ会の計画的実施と読書活性化イベントの実施	A	総務部を中心に全校で活用	7月末時点 662冊の貸し出しがあった。 外部ボランティアによる読み聞かせ会を実施。 ふれあい月間には、22名教員が読み聞かせレポートを作成。	A
継続	図書の貸出・整理等を学習活動として試行展開【10回】	A	図書管理システムの導入に伴い、作業学習の一部に位置付けて実施	I 小とII 高が合同での図書委員会活動を新たに実施。蔵書整理や図書室内のPOP作成や本の修理等の活動を行った。 II 高の作業学習で図書館管理システムの蔵書登録、利用者登録業務を実施。	A

【方針4】 自立と社会参加を支援する学校づくり

	項目	R5 評価	R6 取組の方向	(年度末記載)	R6 評価
継続	本人及び保護者が希望する進路の実現率【100%】(企業就労率【25%】)	B	進路指導部と学部・学年の連携	卒業生全員が進路実現。	A
新規	キャリア・パスポートの運用【書式の作成、運用方法の確立】	—	関係部署が連携し、運用方法の構築	運用を開始し、今後検証が必要。	B
継続	両部門の国際支援活動、ユニセフ共同募金・ダルニー奨学金募金総額【15万円】	B	生徒会、国際支援隊による啓発	目標達成。	A
継続	「さくらホールディングス」諸活動による地域満足度【80%以上】	B	教育課程に位置付け 計画的に実施 顧客の声を聞く事後アンケートの実施	計画的に実施することができた。	B
変更	SDGsを意識した単元、授業の実施と発信【HPによる成果発信 3回以上】	A	総務部が中心となり 教務部等全校の各組織で連携し実践集積と発信 地域人材との協働、資源の活用 発信アイデア検討	ユネスコスクール申請に向けて、各学部で取り組むことができた。	A

【方針5】 インクルーシブ教育システムに向け「センター的機能」の強化

	項目	R5 評価	R6 取組の方向	(年度末記載)	R6 評価
継続	副籍制度を利用した直接交流の実施率【30%】、学校間交流【20回】 「新しい日常」での副籍交流、学校間交流の実施【10回】	B	地域支援部がコーディネートし、オンラインを組み合わせたハイブリッド型で実施	学校間交流については計画的に実施。副籍については、継続して周知徹底していく。	B
継続	公開講座参加者【15人】 オンラインを活用した理解推進研修の実施、外部参加者【50人】	A	総務系各分掌を中心に 通学区域自治体、都立高等学校連携して実施	関係部署と連携し実施した。	A
継続	学校公開は就学・入学を検討している方を対象として実施【説明への満足度80%】	A	教育相談部が中心となって実施。	地域の方々も大勢来校した。	A

	多摩桜祭・PTAと連携した夏祭りにおけるオンラインを活用したハイブリッド型の行事を実施【参加者の満足度80%】	—	多摩桜祭委員会、教務部、総務部が連携して実施、今年の実践を次年度年間計画に反映	地域の方々も大勢来校した。	A
	保護者が学校外の友人に見せたい学校広報物の作成 ホームページ閲覧数【月5000以上】	A	総務部で企画、全校で実践して実現	計画的に実施。さらなる強化を図る。	B

【方針6】校務運営組織と経営企画機能の連携を強化

	項目	R5 評価	R6 取組の方向	(年度末記載)	R6 評価
一部変更	時間管理の意識をもち、定時外在校時間（月間）45時間以上の教職員数の10%未満の実現【10回以上】	B	消灯・退庁の基準を定める 毎日19時にBGMを流し、退庁ムードの醸成	19時退庁を継続して促していく。	B
新規	「マイ定時退庁日」の設定【週1回】 「毎週金曜日」の完全退庁日の設定	—	金曜日は、19時を完全退庁日とする	金曜日の完全退庁に努める。継続して促していく。	B
継続	紙類の使用量削減【10%】	A	ICT機器を活用した会議で、紙資料の削減	パソコンを活用しながら会議の実施。	A
継続	電気の使用量の削減【前年度3%】	B	廊下等照明の小まめな消灯、節電	こまめな消灯を促す。	B
継続	窓口・電話対応での保護者・来客満足度【90%】	B	来客等予定の的確な情報共有 目的に叶った案内の徹底	丁寧な対応等に努めている。	B
継続	組織力の向上【分掌等全員参画】 意思決定にかかる流れの整備と円滑な決定【教職員自己評価全項目+5票】	B	総務部が中心となり、学部・分掌主任が仕事の見える化・組織化を推進	学校評価等を通して推進。	B
継続	コンプライアンスの徹底 個人情報にかかる事故【0】 会計事故【0】 クリーンデスクの徹底【教職員間での相互点検（毎週）】	A	手渡し、施錠管理、机上整理等の励行 組織的な点検の実施 毎週末に学年間における相互の点検を実施	毎週、金曜日にはクリーンデスクに努めていた。	A